

今君津市の話題の中に、30分間道路構想と人口が木更津は増えているのになぜ君津市は減少するのか？があります。その現況を次の表に表わしてみました。

地域別	平成11年	平成27年	増減
清和	3,682人	2,874人	△808人
小糸	10,066人	8,636人	△1,430人
小計	13,748人	11,510人	△2,238人
亀山	2,509人	1,927人	△582人
松丘	3,970人	2,808人	△1,162人
久留里	4,035人	2,948人	△1,087人
小櫃	6,600人	5,287人	△1,313人
小計	17,114人	12,970人	△4,144人
君津	62,629人	63,526人	897人
合計	93,491人	88,006人	△5,485人

単純に見ますと清和・小糸地区は凡そ2200名(22%減)、上総・小櫃地区は凡そ4000名(25%減)、君津地区は凡そ900名の増。山間部で6000人減らし、都市部凡そ1000名増加している状況です。ここでも都市部へ集中の傾向が見られます。

人口減少は出産、死亡のバランスもありますが、一つは将来の社会保障と働く場所の安心安全を都市部へと求めているからであります。特に出産について行政は、女性の雇用の優先、援助支援に力を入れておりますが、出産は都市部ほど少ないと言う現象は子供が産める条件は経済環境が良くなったから、子供を多く産めるとは私は思っておりません。豊かすぎると人に頼らず生きていけると人は錯覚を起こすからであります。先進国で多産国は無い。子供を産み育てることは家族間の生き方、個々の人生のあり方であり、子供を産み育てることの喜びと楽しみ、生きがい、そして家族の将来への安心感(夢、望み、願い)の持ち方であり、若い時には予測する事のできない、老いての孤独感をよしとして生きるか。多勢の家族に囲まれて、にぎやかに余生を託して生きるかであります。

私の持論は、家族はグローバルな経済社会に巻き込まれて拡散しない事であり、声が聞こえ、目に見える範囲で共に働き、共に助け合って暮らせる地域社会を作る事だと私は思っております。「地方創生とは1991年の大店法改正、2000年の大店法廃止以前に溝を埋め戻して、かつて中小零細企業が繁栄し、地域が豊かだった町や村を取り戻すべきだ・・・山中祐介地方消滅の罨」にも書かれております。

君津の活性化は観光産業を軸として、30分間道路構想を市長は決意明言されております。かつて海の工業資源を水と緑の丘陵資源に生かしてと6町村合併して40年余り。曲がりくねった山坂の多い道に遮られ、折角の合併に効果を生むことも少なく、むしろ負担を感ずることが多くありました。

冒頭の表を見て、私は実際に木更津駅を4時に出発して高倉(矢那)街道を走って久留里駅に着いたのは4時30分、走行km数19kmでした。往復すればタクシー代にして12,440円であります。久留里駅から君津駅までは32分(走行キロ数22km)でした。往復44kmタクシー代14,520円あります。君津駅から副次核である久留里駅までが如何に遠く不便であるか私自身痛感いたしました。今回地方創生の機会に市民挙げて、予算が有る無しを考えるよりも、この道が通れば利便性、資産価値上昇による経済効果は極めて大であります。

地方創生の冠頭に曰く地方創生にやる気のあるものは大いに支援致します！と。動き出せば予算も方法もついて来るものです。

早期実現のため色々な意見を聴取し積極的な議論を展開して参りましょう。